

学校目標	中長期的目標	今年度の重点目標
1 基本的な生活習慣を確立し、豊かな知識・表現力、創造的な思考力を身につけた生徒の育成を目指す。	I 自律的な生活習慣の確立を図る。	i 生徒の学習意欲向上と学習習慣定着のため、日々の授業の改善と充実に努める。
2 保護者、地域の方々の願いに謙虚に耳を傾け、健康でたくましい有為な若者の育成を目指す。	II 学習支援の環境を整備する。	ii 生徒会の委員会、クラブを通して、生徒の自律を促し活気ある学校づくりに努める。
3 学年、学級、教科担任、クラブ・委員会顧問、各係等が相互に連絡・連携をとり、公正な生徒への指導を目指す。	III 自己の適性の伸長と学力の向上を図り、希望進路の実現に向けた指導をする。	iii 生徒の進路実現に対応した進学対応型単位制の更なる研究および新教育課程の研究・準備をする。
	IV 全教職員の連携がより円滑に機能するような学校運営を行う。	iv 生徒の学力の向上のために、校内各分掌及び様々な教育機関との連携に努める。
		v 保護者及び地域にむけて情報発信するとともに、さらに理解・信頼される学校づくりをする。

総合評価		
今年度重点目標に対する成果と課題（年度末）	評価	今年度重点目標に対する改善策・向上策（年度末）
i 学習環境整備はすすみつつある。 授業アンケート、保護者アンケートにより、取り組むべき課題が明らかになった。	A	より一層の授業の充実、生徒の学習時間の確保等の課題について、具体的な改善にむけて検討する。
ii 生徒会活動、部活動について、生徒が伝統を継承し、主体的に取り組む、充実した活動及びよい成果をあげることができた。		生徒の積極的な活動を、学校全体として見守りながらも適切にサポートする。
iii 進学対応型単位制のシステムが定着した。		生徒一人ひとりの、学力の定着と向上、進路の実現にむけた指導ができるよう、新教育課程表を完成させる。
iv より一層連携できるように校内分掌間の再編を行った。大学の学びと高校での学習の連携のための話し合いをもつことができた。		大学との連携内容については、来年度実施にむけて具体的に深めていく。
v 学年通信・進路通信（校舎外）の定期的発行、インターネットでの活動紹介を常時行った。 学校周辺の早朝清掃については須坂市青少年育成会で善行賞をいただいた。		生徒会、部活動、生徒個人の地域交流及びボランティア活動について、学校として把握バックアップしていく。 保護者や地域にむけて、常に誠実な説明を心がけていく。

〈評価〉 A:達成 B:ほぼ達成 C:改善の余地有り

領域	対象	今年度の具体的目標（評価項目）	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	1 平成24年度から先行実施される数学と理科の新教育課程を研究し、本校生徒の進路希望に対応した教育課程をつくりあげていく。	・各教科の協力を得ながら数学と理科の新教育課程を分析し、その結果を踏まえきめ細かなカリキュラムとなっているかどうか。	年度当初より検討を重ねた結果、平成23年度の新教育課程を完成した。平成24年度から始まる新教育課程に対応した案は、各教科の協力を得ておおまかな骨格を作り上げることができた。	B	新教育課程の細部を検討し、6月までに成案を得る。
		2 教育課程上の改善点を検討する。	・進学対応型単位制を含め、特色ある教育課程の実現に向け、生徒・地域の多様な要望に対応したカリキュラムになっているかどうか。	新教育課程を編成する上で改善すべき事項がみつき、目標を見据えて議論していく中でより良い教育課程を目指すことができた。	B	新教育課程の成案を得るといことから、次年度は委員会を年度当初の4月から行う必要がある。
	学習指導	学習習慣の確立を図る。	家庭での学習習慣を確立させる指導ができたか。 学習合宿・オリエンテーションは効果的であったか。	HR担任との面談や生活時間調査などを通して家庭学習習慣の指導は継続的に行われた。また、各教科においても計画的に課題が用意され、基礎基本の定着と併せて家庭学習の習慣化のための指導が継続的に行われた。 1年生の入学直後のオリエンテーションおよび学習合宿は、中学から高校への生活スタイルや学習スタイルの切り替えの理解に役立った。また、1・2年生の夏季の学習合宿は夏休み前後の学習のつなぎの場として意義があった。	A	今後もHRでの指導や教科指導を通して、学習習慣の確立や定着を目指して継続的な指導を続ける。 学習合宿の期日・期間・会場については当該学年を中心に必要な検討を行い、より有効性のあるものになりたい。
		放課後や土曜日の自主学習支援の充実を図る	自主学習を支援するための学習環境の整備ができたか。	7月より全職員で放課後に自習室見回り当番を行い、自主学習の場の保障をしてきたが、テスト前や保護者懇談会の期間などを除くと、平日の自習室の利用者は多くはなかった。	B	新入生への自習室利用についての周知を徹底するなどして、利用増進を図りたい。また、そのためには通年で自習室見回り当番を計画する必要がある。
		教科指導力の向上を図る。	公開授業や授業研究会を有効に活用できたか。 授業アンケートが授業改善に活かされたか。	6月上旬に公開授業期間を設けたが、互いに参観して交流することは多くはなかったが、教育実習生の授業研究会などの折にそれぞれの教科で指導法について研究協議することはできた。 授業アンケートを全講座で前期末の9月末に実施し、集計結果を教科および担当者に報告した。集計結果の数値データ・記述データはそれぞれの担当者において適宜活用されていた。	B	教科指導力の向上のため、公開授業や授業研究会をはじめ様々な機会を今後も活用したい。 授業アンケートについて、質問内容や項目の妥当性や集約の簡便化を検討したい。また、集計結果を少しでも早く授業改善に反映させるために、実施時期の検討も必要である。
		職員間の連携した指導を充実させる。	成績・出欠・学力状況に関わる情報を職員間で共有し連携した指導ができたか。	校内ネットワークや学年会・職員会を通して情報が共有され指導に有効に活用された。特に出欠については、2年・3年は講座に分かれての授業が多が、校内ネットワークの利用でHR単位での出欠把握がスピーディーにできている。	A	今後も生徒の学力向上や学校全体の教育力アップのために、必要な情報の共有を大切に考えていきたい。
進路指導	1 国公立大学を中心とする生徒の希望進路の実現に向けた指導を適切に行う。	・センター試験（文系6—7型、理系5—7型）に多くの生徒が参加したか。 ・進路希望実現に向けての指導は適切であったか。	センター試験への出願は98%で、ほぼ3年生全員が出願した。私立専願者についても、基本的には7科目で出願しており、指導の成果が表れた。	A	今年のセンター試験の結果は本校生にとって非常に厳しいものであったが、面談等を重ねて行うことで、生徒の希望をできるだけ叶える形での出願指導をすることができた。	
	2 後期日程廃止等の受験形態の変化に適切に対応する。	・生徒への情報提供等、指導が適切であったか。	進路通信等を通じて情報提供を行っている。24年度の大規模変更の前年ではあるが、入試の変更については適切に指導している。	A	23年度入試関連の情報提供、指導は適切に行われた。来年度に向けて、24年度入試の変更点や私大入試の方式等について生徒に周知をはかりたい。	
	3 『進路選択の手引き』、『合格体験記』を活用する。	・HRや教科での活用が進んだか。	各学年とも書き込み式のページを設けるなどして積極的に活用している。特に調査・模試の振り返りと家庭学習記録の取り組みに力を注いでいる。	B	『合格体験記』や『四阿おろしを身に受けて（職業案内）』の積極的活用と、家庭学習記録の成果を今後に生かす方策を考えたい。	
	4 中学校や大学などの教育機関との連携を図る。	・中学校との連携を深めることができたか。 ・大学見学や模擬講義を通じて大学との連携を深めることができたか。	大学との連携を模索すべく、大学の先生方とコンタクトをとっているところである。	B	大学側とは具体的な形で連携に向けての話し合いを持つことができた。今後は内容について深化させるべく連携を深めていきたい。中学校との連携については計画段階から一歩先に進めていきたい。	
	5 検討会や研修会の充実を図る。	・模試検討会、3年進路検討会や研修会を通して職員の共通理解が進み、生徒への指導に生かされたか。	卒業生入試研究会への職員参加状況が大変悪かったため、その後の模試検討会などでは積極的な呼びかけをし、状況は改善され、センター試験を終えてのまとめの会では、ほぼすべての職員が参加した。3年進路検討会では担任間の共通理解が高まった。	B	今後も生徒理解と適切な指導のために検討会などを通じて職員の意識と理解を高めていきたい。今年度も外部講師を招いての講演会を企画したが講師の都合で来年度へ持ち越しとなってしまった。今後はもっと計画をしっかり立てていきたい。	
	6 大学見学会を実施する。	・より多くの生徒が大学見学会に参加したか。 ・生徒が大学の情報を得たか。	一人で2回参加する生徒が多く出るなど例年にもまして大学見学会に参加する生徒は多かった。実際に大学キャンパスを訪れることで情報を得るとともに生徒の意識向上に役立った。	A	来年度に向けての引き継ぎをしっかりとこなして、改善できるところは改善していきたい。今年度はOBにも協力してもらったが、来年度もこの取り組みは継続していきたい。	
	7 進路講座の充実を図る。	・各学年とも生徒の志望や関心に応える内容であったか。 ・指導の時期は適切であったか。	各学年とも必要な時期に進路講座を実施した。	A	今後も必要と思われる時期に実施していきたい。来年度に向けては、年度当初に実施計画をすべて決定しておくことLHR等の計画も立てやすくなるので、そのように改善していきたい。	
	8 夏期講座・土曜講座・特編授業の充実を図る。	・多くの生徒が熱心に参加できたか。 ・生徒の学力向上につながっているか。	予定通りに実施しており、生徒も熱心に参加している。	A	内容の精選や見直しなど、3年間を見据えた形での指導へと改善していく必要があるため、係としてそのような提言をしていきたい。	
	9 進路指導用教材を有効に活用する。	・サテライト授業が計画的かつ効果的に活用されたか。	昨年度にならって計画し、夏期休業中の学習に活用できた。	B	必要な時に繰り返し視聴できるようになっているので、活用する範囲を拡大し、さらに学力向上へとつなげていきたい。	

生活指導	1 自律的な生活習慣の確立を図る。	・挨拶をきちんとすることができたか。 ・遅刻を少なくすることができたか。 ・自転車を中心として、交通安全の意識を高めることができたか。 ・貴重品の管理を徹底することができたか。	・5月と11月に遅刻指導を行った。遅刻者は少ないが、11月には増加した。 ・4月と10月に街頭で交通安全指導を行った。 ・10月には自転車通学願を提出させる指導を行い、多くの生徒が通学用ステッカーを貼ることができた。 ・年度当初に比べ、盗難被害が減ってきた。 ・小体育館の女子更衣室の使用規定が明確になり、女子部室区域の入口が施錠され、区域の上に鉄条網が張られた。	B	・遅刻者をさらに少なくするとともに、生徒会係と連携してクラブ活動後の下校時間厳守を呼びかける。 ・自転車通学願を提出させる指導を4月と10月の年2回行いたい。 ・貴重品の管理と施錠については、繰り返し注意を喚起する。
	2 集団生活の中で人間関係の確立を図る。	・生徒が安心して学校生活を送れるように、「いじめ」がなく、「不登校生徒」などに対しても十分に支援をする体制づくりができたか。	・特別支援教育コーディネーター及びスクールカウンセラーを配置し、生徒の心の支援に配慮して指導を行った。 ・特別支援いじめ不登校等対策委員会と連携を図った。	A	・特別支援教育コーディネーターを中心に研修会を持つなど職員の知識や理解の向上を図る。 ・不登校等の生徒についての最新の情報を職員間で共有する。
	3 職員間で情報を共有し、関係機関や保護者との連携を図る。	・校外での情報交換を本校の指導に生かすことができたか。 ・関係機関や保護者との連携を密にした指導を行うことができたか。	・校外の関係機関や近隣の学校との情報交換を密に行った。 ・入学式やPTA総会等で本校の指導方針を保護者に伝えた。 ・「生活指導だより」を発行し、必要な情報を生徒や保護者に伝えた。	A	・今年度の活動を継続する。
	4 生徒会との連携を図る。	・校風委員会と連携して、「挨拶活動」、「自転車の施錠、駐輪マナーの向上活動」などを実施することができたか。	・「挨拶活動」、「指定の上履き調査」は実施できたが、「自転車の施錠、駐輪マナーの向上活動」は実施できなかった。	B	・「挨拶活動」は継続し、「自転車の施錠、駐輪マナーの向上活動、自転車通学願の提出」については、委員会から呼びかけさせる。 ・委員長と密に連絡をとり合い、職員と生徒が一緒に活動する。
人権平和	1 基本的な人権に対する認識を深め、主権者としての自覚を高めるとともに、他人の人権を尊重する姿勢を育てる。	・人権や平和の問題について積極的に考え、行動する力を伸張する機会や場を設けることができたか。	・10月7日実施の人権平和講演会では、講師の田村望園先生に「二胡が会わせてくれたもの」という演題で、小学校時代を受けたいじめの体験談を、二胡の演奏を交えながら語っていただきました。 ・2学年沖繩修学旅行では、映画「ガマ月桃の花」の鑑賞・松代大本営跡地見学・県立博物館「ひめゆり特別展」見学などの事前学習も含めて、さまざまな角度から人権や平和について考え、学ぶことができた。	B	・一分野の人権問題に留まらず、いろいろな分野での人権問題（特に犯罪被害者、児童虐待、セクハラ問題等）について、広い視野に立って生徒に考えさせる機会を設けて行きたい。
	2 自主的・民主的な集団づくり、仲間づくりを図る。	・ホームルームを中心に、生徒会活動、クラブ活動などを通じて、集団や仲間について学ぶ機会や体験する場を設けることができたか。	・文化祭(龍胆祭)の準備および当日の活動を通して、クラス・学年を超えた広い範囲での仲間づくりや自主的・民主的な場を体験することができた。 ・クラブ活動やクラス・学年の活動(クラスマッチ・大学企業見学など)を通して、集団や仲間について考える場を設けることができた。	A	・日頃の生活の中での仲間づくりについて、生徒にじっくり考えさせる時間や機会が取れるように努めたい。
生徒会	「生徒会活動の活性化を図る。」 1 計画性を持って準備をし、実施後の反省を次に生かす。	・生徒会活動(特に、りんどう祭と卒業式第2部)、委員会活動、クラブ活動が計画通りに実施できたか。	行事は概ね計画通りにできた。地域の清掃活動に参加し、有意義であった。クラブ活動も活発で好成績を残した。校風委員会を中心に朝の挨拶運動をおこなった。明るく挨拶が交わされるような取り組みを継続しておこなってほしい。	B	各委員会間の連携を密にし、積極的に計画し活動をさせたい。
	2 活動を通して、自主性の涵養を図る。 挨拶の徹底・校歌をしっかりと歌う	・自治活動や奉仕活動の達成感や満足感が得られたか。 ・朝の清掃活動が計画的に実施できたか。	朝の清掃活動に文化部も参加し、活動が定着した。慣れにより取り組みが甘くなることのないようにしたい。	A	生徒会が先頭に立って、活動をしていくことが重要である。
	3 環境に配慮した取り組みを生徒会として行う。	・環境に関する企画をし、実施できたか。	落ち葉の堆肥作りは、発酵が遅れ地域の人に配布できなかったため、引き続き取り組みを継続している。ごみの分別については環境備化委員を中心によく取り組めた。	A	継続していくことと、更なる質の向上に向けた取り組みを考えたい。
図書視聴覚	1. 図書館利用の拡大を図り、読書習慣を定着させる。	・図書館利用が増えたか。 ・図書の貸出数は増えたか。	ライブラリや図書館報の発行などにより、図書館の様子などが生徒に伝わり、図書貸し出し数が前年に比べ若干増えた。	A	市内4校図書委員研修会で得たことを来年度の活動に生かしたい。また、来年度は本校が支部SLAの事務局校となるので、そういった意味でも図書館活動が活発になるよう努力したい。
	2. 教科・授業、小論文への資料の充実を図る。	・利用者の要望に応じることができる資料の充実が図れたか。	館内にリクエスト用紙を置き、随時受け付けている。また、店頭購入時に全校にアンケートを配布し要望に応えている。	A	来年度も引き続き工夫しながら取り組んでいきたい。
	3. 冬期においても快適な環境を整え、更なる施設の利用を図る。	・冬期間、多くの生徒が利用したか。	例年並みに生徒の利用があった。	B	生徒が利用しやすい環境となるよう引き続き努力したい。
	4. 視聴覚室及び視聴覚教材の有効活用と各部署との連携を図る。	・利用しやすい環境を整え、視聴覚室が有効に利用されたか。	今年度は特に大きな環境改善はなかった。例年並みに利用されていた。	B	利用しやすい環境となるよう引き続き努力したい。
保健	1 心身の管理を図る。	1 保健室への来室者への対応が適切であったか。また、関係者や関係係との連絡・連携ができていたか。 2 緊急時、保護者への連絡および医療機関との対応が迅速・適切にできたか。 3 学校保健安全法に則り各種健康診断を計画的に実施し、事後指導が適切であったか。	緊急時には保護者及び医療機関への連絡が迅速にできるよう、関係職員と協力できた。 職員のためのAED講習会を実施した。 定期健康診断は計画通り実施し、その結果をもとに必要な生徒には、個別の指導を行った。	A	今後も緊急時には、迅速に対応できるように務めたい。 職員のためのAED講習会は引き続き実施したい。
	2 環境の管理を図る。	1 学校環境衛生検査を適切に行い、その結果を生かせせ 2 トイレが清掃され、清潔であるかの確認 3 校内の危険箇所、安全に配慮が必要となる箇所の確認	学校環境検査は計画通り実施した。 校内の清掃や点検を、保健委員や運動クラブ等の生徒共に行った。	A	継続した取り組みを行ってほしい。
	3 保健指導を充実させる。	1 生徒が自分の健康に関して興味関心をもてるような広報活動ができたか。 ・保健委員会等による広報活動 ・保健委員会の活動支援	保健だよりおよび掲示物で広報活動を行った。	B	継続して広報活動を行うとともに、さらに充実した保健指導ができるように工夫をしていきたい。
PTA	1 PTA総会、学年・学級PTAを活性化し、相互理解を図る。	・総会、学年・学級PTAに多くの人が参加したか。	・2学年PTAは「2010卒業生を送り出して」と題し、卒業学年担当者からの報告をメインに、保護者の方も熱心に参加されていた。	B	・昨年同様、午前中に授業参観、午後にはPTA総会を開催した。出席率は昨年の60%から56%に減少した。学級PTAが発足したので更に活動を活性化させたい。
	2 PTA研修会を通して、高校生の健全育成・適性進路について研鑽を積む。	・PTA研修会の満足度が高かったか。	・各クラスとも半数以上の保護者の参加があった。進路に直結した講演で好評であった。(1年) ・PTA研修会は参考になる内容が多く、今後も続けて頂けるとよいと思います。	A	・懇親会の参加の人数を増やすことや内容の工夫が必要。日程を一週間前後にずらすなど検討したい。
学校運営	1 学校が更に円滑に運営されるように努める。	・諸行事の計画を早めに立て、生徒・教職員・保護者への周知徹底が図れたか。 ・月曆の発行がされたか。 ・文書処理、成績処理等のOA化をさらに推進できたか。	・諸行事月歴についてすみやかな連絡ができた。一部間違いがあったがすぐに訂正して混乱を防げた。 ・業務のOA化は進んでいる	B	・年間行事ははじめとした計画に間違いがないかどうかの事前確認 ・内規を電子化する。
	2 校内の情報を外部に発信し、本校への理解を深めてもらう。	・授業公開、体験授業、学校説明会に多くの中学生・保護者・他校教職員・地域住民等に参加していただけたか。 ・ホームページ、ポスター等で学校の様子を紹介できたか。	・ほぼ計画どおりできた ホームページ更新も順調	A	・年間行事とあわせて効果的な実施時期を検討していく ・さらに様々な情報を発信できるように工夫したい
予算施設	1. 老朽化および危険箇所への十分な対応をする。	・日頃安全確認ができているか。 ・危険箇所等を確認した場合は、速やかに改善できたか。	・要望のあった箇所の改修、改善は完了した。また次年度に向けて計画を作成した。	A	・計画通りに進めることができた。
	2. 生徒の教育環境をより充実させる。	・教育環境等の整備ができているか。 ・学習活動に必要な備品等を整えることができたか。	・痛みのひどい教室床の改修が完了した。また、備品は配当予算の範囲で整備した。	B	・HR教室、準備室の適正配置など年度をまたいだ課題が残る。
情報処理	1 情報処理機器及びネットワーク利用による校務の合理化の推進を図る。	・データベースを整備し、今まで以上の活用ができたか。 ・アプリケーションソフトの有効利用ができたか。	・公務使用パソコンの配置、設定の整備を進めた。	B	・必要な機器の更新、整備に努める。
	2 情報処理機器及びネットワークを利用した教育活動の推進を図る。	・授業で活用できたか。 ・授業や生徒の様子を外部に発信することができたか。	・情報科授業で進めている。 ・定期的にホームページを更新し、情報を発信した。	A	・ホームページの内容を検査し、更に見やすいものにする。
	3 情報リテラシー教育の推進を図る。	・個人情報・著作権保護、セキュリティ確保の大切さを職員・生徒に伝えたか。 ・特別活動などで正しい知識と実践を指導できたか。	・年度当初に周知を図ると共に、情報関係の管理規定について更に整備を進めた。	A	・生徒、職員の個人情報に対する意識の向上を図る方策を検討する。
防災	1 緊急体制を整備・確立する。	・生徒・職員の緊急連絡網が整備されたか。 ・避難訓練が有効に行えたか。	・連絡網については4月当初に準備できた。 ・避難訓練は緊張感を持って速やかに実施できた。	A	・常に迅速に緊急連絡が出来る体制を今後も整えていく。避難訓練については消防署職員を招いて実施することも検討したい。
	2 緊急時の対応方法を確立する。	・緊急避難経路が生徒に対して周知徹底されたか。 ・緊急時の対応が適切であったか。	・緊急避難経路はきちんと周知されており、実際の避難訓練によってより確実なものになった。対応も適切であった。	B	・より速やかに避難できるように避難経路について再検討する。